ドイツにおける GAP の取組

～まず GAP の実施で意識改革とレベルアップを～

加藤　賢治（農業総合試験場企画普及部広域指導室）

【平成３０年１２月２１日掲載】

【要約】

GAP が広く普及しているドイツの取組について、行政組織、認証機関、認証取得農家、スーパー等を調査した。EU で取り組まれているクロスコンプライアンス（環境に配慮した農業を行うなどの一定要件を満たした生産者に補助金などを支払う仕組み）が、GAP と多くの部分で共通することが、ドイツで GAP が広く普及している要因の一つであった。また、GAP のメリットは農家の意識改革とレベルアップであり、認証取得のための農家の負担を軽減するために、認証費用の大幅な低減が図られていた。認証費用のかからない愛知県 GAP の実施で意識改革とレベルアップを図り、必要に応じて国際水準 GAP 等の認証取得へステップアップを図るべきと考えられた。

１　はじめに

東京オリンピック・パラリンピックの食材調達基準として GAP が取り上げられ、GAP に関心が高まっている。農林水産省は、国際水準 GAP の認証数を３倍にする目標を掲げ、GAP 指導員の養成に力を入れており、愛知県においても県認証 GAP はじめ、GAP の普及に取り組んでいる。本年９月、GAP が広く普及しているドイツの取組について調査したので報告する。

２　調査内容

（１）　行政組織（Landwirtschaftsamt Emmendingen：エメンディン郡農業局）

ドイツにおける GAP 普及の背景として、ドイツの農政（所得補償制度）を知るために、行政組織であるエメンディン郡農業局を訪ねた。EU では、1960 年代から共通農業政策（CAP：Common Agricultural Policy）が取りまとめられ、各制度が実施されている。CAP の当初の目的は①生産性向上と②農家が適切な所得を得ることであった。1980 年代になって、農産物の生産過剰とそれに伴う政府の財政負担が問題となり、また、食品安全、気候変動、自然保護（環境保全）、景観保全の課題が発生したことから、これらに対応するため、「環境に配慮した農業の推進とそれに伴う農家所得の減少を補償する形での直接支払い」が導入された。この仕組みをクロスコンプライアンス（交差要件）と言い、EU の農業生産において直接支払いを受け取るには、環境に配慮した農業の実施が必須条件となっている。

GAP にはクロスコンプライアンスと共通している部分も多く、農家が取り組みやすいことがドイツで GAP の普及している要因の一つと考えられた。

（２）　認証会社（CertPlus：セルトプラス株式会社）

セルトプラスはバーデン地方農業連盟（ドイツ農民連盟の地方組織。農民連盟は日本のＪＡ中央会のような組織）の子会社として設立され、農家の GAP 認証コストの低減を図るため、認証費用を大幅に引き下げ「価格破壊」を行った。

ドイツで主流の GAP は、GLOBALG.A.P. ではなく、日本の ASIAGAP にあたる QS-GAP である。QS-GAP は GLOBALG.A.P. と同等性認証を受けている。

QS-GAP の認証費用は、始まった当初は数千€（数十万円）だったが、現在は５万円くらい（セルトプラスでは 300€／件、別に取りまとめ機関へ登録料が 80～100€／年必要）で、GLOBALG.A.P. より安い。

GAP 認証取得の目的については、ドイツではほとんどの農家が所属する生産者組合が、卸売会社としての機能を持ち小売りに販売しているため、小売りの要求で認証を取らざるを得ないことにある。また、独自流通の農家でも将来の流通のために取る人もいる。認証取得のメリットは、肥料や農薬の知識を学ぶ機会となり、農家のレベルアップにつながることにあり、チェック項目の一つ一つはそんなに難しくないとの意見が多い。

写真１　セルトプラス社はバーデン地方農業連盟と同じ建物内にある

認証取得に向けた農家の指導については、卸売会社や共同卸売組織などに指導者がいるほか、セルトプラスでも指導を行う。指導に際し、資格は特に不要だが、農業をよく理解し、実地で指導できる力が必要である。農家が認証取得するには指導者（助言者）が重要で、指導者なくしては取得が難しいとのことであった。

（３）　GAP 認証農家（Hofgut Hochburg：ホッフグットホッフバーグ農場）

GAP 認証農家の取組の実態を知るため、ホッフグットホッフバーグ農場を訪ねた。農場の規模は畑（果樹園）60ha、牧草地 40ha（乳牛、鶏、アヒル）であり、QS-GAP と有機認証（Bioland、Demeter）を取得している。有機認証があれば消費者へのＰＲも不要（しなくても売れる）とのこと。

認証のためのコストについて、有機認証の経費は QS-GAP より少し高く 600€／件、他に有機団体の会費が 1000～2000€／年（助言を受けるには別途費用がかかる）と、1 日 30 分程度の事務処理が必要である。それでも、有機農産物は認証のない農産物のおよそ２倍の価格で売れ、また、有機農業には 240€／ha の補助金が出るため、経営的に見合うとのこと。政治的な判断により、所得の 40%が補助金となるなど生産者の所得を確保しながら、食品価格が安く維持されている。

（４）　卸売会社（Obst- und Gemusevertried Sudbaden Gmbh：OGS 株式会社）

前述のとおり、生産者組合（日本の部会組織）が卸売会社として機能していた。主な商品は、アスパラガス、イチゴ、オウトウ、スモモ（その他、リンゴ、西洋ナシ、ベリー類）である。

対応していただいた Schneider 氏は、元州の普及指導員で、栽培普及員として会員

農家の GAP 認証を支援している。

GAP 認証は、ＥＵ圏の４大スーパーが要求してきたことから取り組むことになった。会員農家へは公開討論、個別面談、説得等の啓発を行って認証取得を進めた。反発して会社（組合）を辞めた人もいたが、一方で戻ってきて認証を取った人もいる、とのことであった。

GAP 認証取得農家に対しては、技術的・事務的支援を行っている。この支援に対しては、国の補助金が活用されるなど、国をあげた支援となっている。

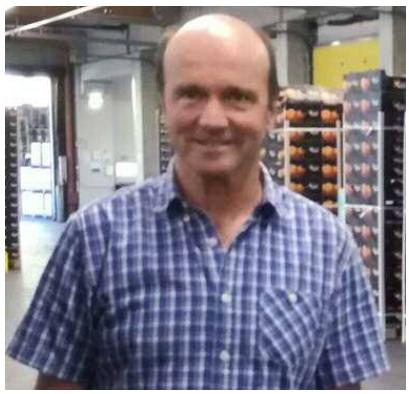

写真２　元州の普及員で現在は OGS の栽培普及員 Schneider 氏

GAP のメリットを質問したところ、①農家のレベルアップ、改善のヒントが見つかることもあること、②５年に１回土壌分析が義務付けられ適正な施肥に有効であることなど。回答にはなかったが③量販店に販売できることもメリットと思われた。

次に、Schneider 氏自身が GAP 認証支援のスキルをどのように上げたかを質問したところ、最初は難しかったが、農業の基礎知識があれば場数を踏めばできるようになる、とのことであった。また、指導マニュアルはなく（ドイツではマニュアル自体が一般的ではないらしい)、数年したら退職なので、後任に伝える必要があると話していた。

（５）　小売店（EDEKA,REWE,ALDI,BIOMARKT：大手スーパー、有機スーパー）

大手スーパーとして EDEKA、REWE の２店、安売りスーパーとして ALDI、有機スーパーとして BIOMARKT で農産物流通の実態について青果物を中心に調査した。

各スーパーでの取り扱いは、概ね、BIO（有機農産物)、REGIONAL（地元産農産物、QS-GAP 認証の地元産のものを含む)、無印（GLOBALG.A.P. 等）の３つがあった。REWE での割合は、REGIONAL５：BIO４：無印１くらいの割合であった。

価格差については、同じ規格のものが少なく比較が難しかったが、概ね、無印（GLOBALG.A.P. 等）×１．５＝REGIONAL、さらに REGIONAL×１．５＝BIO であった。

写真３　州認証マークの付いた REWE の REGIONAL 商品

３　考察

ドイツでは、GAP を始め農産物認証が定着し、その取組により農産物の付加価値を高めており、日本に比べ大変進んだ状態であった。大手スーパーからの取引条件でやむなく認証取得している面もあるものの、販売メリットや経営改善の点で生産者はそれなりの評価をしていた。まだ GAP 認証が取引条件となっていない日本では、まず GAP を実施することにより、農家の意識改革やレベルアップを図り、必要に応じて認証取得に進めば良いと思われた。その際には、できるだけ多くの普及指導員が関わり、GAP 認証に関するノウハウ

を身につけるべきであろう。認証取得という点からは、GAP 認証に必要な金銭的、事務的な負担を軽減するため、認証審査等に費用がかからない愛知県 GAP の活用は有効である。さらに、認証取得支援事業の充実をはじめ国際水準 GAP の認証取得費用が大幅に低減となれば、県 GAP から国際水準 GAP へステップアップを図ることも有効な手法と考える。

Copyright (C) 2018, Aichi Prefecture. All Rights Reserved.